

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	鈴木 瑛貴 【比較社会文化学専攻 平成27年度生】	<p>身体表現活動は、子どもがからだいっばいで体験したこと感じたことを表現する活動、すなわち「表現」の領域の内容として、保育に取り入れられてきた。イメージや感じたこと、考えたことを自分の動きで表現することを「身体表現」と筆者は捉えている。身体表現の他に、「表現」の領域の内容には、音楽表現、造形表現、言語表現が示されている。古市(2013)は、造形は作品として、音楽は楽譜として、言語はある集団の約束事として留めておくことが出来るが、身体表現はそれを見た人が動きを見ながら自分で合成していくものであり、コミュニケーション的な双方向性のやり取りによって豊かなものになると述べている。そこで、本論文は、身体表現活動における子どもと保育者のかかわりあいほどのようなものか、その様相を明らかにすることを目的としている。まず保育者と子どものかかわり合いを「対話的かかわり合い」と捉え、D.Nスターンと鯨岡峻の理論からその様相を考察した。そのうえで、実際の幼稚園で行っている身体表現活動における保育者と子どもとのかかわり合いや保育者の子どもへの働きかけ、子どもの身体表現活動を通した変容プロセスを実証的に分析、考察した。</p> <p>本論文に対する審査は査読に基づいて二回行われ、第一回審査会では、豊富な事例を積み上げて地道に研究をまとめ上げていることに対して高く評価された。しかしながら、論文タイトルと最終的に導き出したことに齟齬があること、「対話」という概念を明確にすることの指摘を受け、それらの箇所への修正が求められた。</p> <p>第二回審査会では、以上の指摘に対し適切且つ妥当な加筆修正が施されていることを確認し、論文の内容が深まったと評価された。</p> <p>公開発表後、それに引き続いて行われた最終試験における質疑応答においても、真摯な姿勢で満足すべき応答が得られ、研究に対する理解力と学力が十分であるものと判定された。</p> <p>以上の結果、本論文は博士論文としての到達点に達していると評価され、本審査委員会は全員一致で、学位申請者鈴木瑛貴が最終試験に合格し、人間文化創成科学研究科の学位、博士(学術) Ph. D. in Dance Studiesとして認定するに値すると判定した。</p>
論文題目	身体表現活動における保育者と子どもの対話的かかわり合いの様相	
審査委員	(主査) 教授 猪崎 弥生	
	教授 水村 真由美	
	教授 浜口 順子	
	教授 新名 謙二	
	教授 米田 俊彦	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/>)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	